

高齢障害者に対する支援の連続性に係る介護福祉士等の実践の実態と課題

○国際医療福祉大学 松永 千恵子 (004825)

益子徹 (首都大学東京・008294)、市川和男 (国際医療福祉大学大学院・07168)、

〔キーワード〕 高齢障害者、介護福祉士、インタビュー調査

1. 研究目的

本研究の目的は、高齢障害者に対する支援の連続性に係る介護福祉士等の実践の実態と課題を明らかにすることである。日本における高齢障害者は内閣府の統計によれば年々増加傾向にある。先行研究では高齢知的障害者や高齢発達障害者に対する支援の研究¹⁾や介護保険サービスと障害福祉サービスの比較に関する研究²⁾などがなされている。しかし、障害者が65歳以上になり高齢福祉サービスを利用していく中で介護福祉士・介護支援専門員からどのような支援を受けているのか、それまでと同様の支援を受け続けることが出来ているのか等の支援の連続性に係る実態と課題に関する研究はなされていない。本研究により、高齢障害者の連続的な支援のための制度上の構造的・実践的な課題を明らかにすることが期待される。さらに継時的変化に対応しなければならない市町村の重層的支援体制整備事業においても高齢障害者の継続的な支援について重要な知見を得られるものと考えられる。

2. 研究の視点および方法

本研究の視点は障害者が65歳以上になり高齢福祉サービスを利用した際に、介護福祉士が必要とされる支援を連続させる役割を果たしているかどうかにある。

本研究の方法は、介護福祉士3名および介護支援専門員5名(介護福祉士国家資格保持者で高齢障害者への介護経験あり。)を対象とするインタビュー調査である。調査対象者の選定にあたっては、地方と東京という視点を下に研究者がこれまでフィールドワークをしている栃木県および東京都に所在する高齢者施設に在職している介護福祉士と介護支援専門員とした。インタビュー方法はWeb会議サービス(Zoom)を用いたオンラインによる構造化面接である。調査対象者へは事前にフェイスシート(属性)と、質問項目を送付し、調査内容を確認の上、内諾を得た。さらに、調査協力が得られた後に、改めて調査内容に対する趣旨や同意を撤回した場合に不利益がないことを説明の上、調査内容に対する同意書への自署の後、インタビューを実施した。インタビューの所要時間は、およそ40

1) 国立重度知的障害者総合施設のそみの園(2012)「厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業 地域及び施設で生活する高齢知的・発達障害者の実態把握及びニーズ把握と支援マニュアル作成」国立重度知的障害者総合施設のそみの園。

2) 丸岡 稔典・我澤 賢之(2020)「高齢障害者の介護保険利用の実態」社会システム研究(41), 267-280, 立命館大学社会システム研究所。

分～60分間程度、調査期間は2022年3月13日～2022年3月31日である。分析方法は、インタビュー内容の逐語記録に対し定性的（質的）コーディングを用い（佐藤2008）³⁾、カテゴリーを抽出した。なお、分析にあたっては、その信頼性と妥当性を高めるために3名の研究者で実施した。

3. 倫理的配慮

本調査は、日本ソーシャルワーカー協会「研究倫理審査小委員会」により2022年3月13日に承認を得て実施した（日本ソーシャルワーカー協会「研究倫理審査小委員会承認番号第一号」）。調査の実施の際に、研究の趣旨や調査結果を公表する際は、回答者や団体名が特定されないよう配慮し、調査データはセキュリティ機能のついたパーソナルコンピュータのハードディスク内に保管することなどを説明した。

4. 研究結果

<障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行する利用者の属性に関する課題>

医療度の高い高齢障害者障害当事者の医療度（胃瘻・喀痰吸引・尿管ステント留置・バルーンカテーテル留置・ストーマ・インスリン）が高く、高齢者の施設で受け入れの相談の段階で難色を示され、スムーズに移ることが困難になるという。重複障害のある高齢障害者、精神疾患のある高齢障害者の受け入れについても、困難な状況である。障害の理解不足や高齢障害者のサービスの知識不足も関係していた。

<介護福祉サービスにかかわる職員の課題>

職員の障害福祉サービスの知識不足がほとんどのインタビュー対象者から語られた。

<事業所の課題>

以前の施設ではどのように支援を受けていたのかといったことに関する「申し送り」の不足や、介護保険のサービスに移行する際に、どちらが主導権を握って進めていくのかはっきりせず、やりにくいという発話が示された。

<介護福祉サービスの制度上の課題：利用料金>

障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行すると施設入所の場合、料金が高くなるため、利用相談が慎重になるケースがある。

5. 考察

① 介護福祉士の障害特性の理解および高齢障害者のサービスに関する学習の必要性

高齢者施設において高齢障害者に適切に支援するには必須の知識である。障害特性の理解および高齢障害者のサービスに関する学習を今以上に進めて欲しい。

② 介護福祉士への障害福祉サービスの施設職員による情報提供・連携の仕方

この点については、国主導で、具体的にどのように行うのかプロセスを明示してその内容の普及を図るべきである。具体的な手順方法、プロセスは標準化し、担当職員に研修を行い、広く普及させることが考えられる。

③ 地域包括ケアシステムとの関係に関する考察

「重層的支援体制整備事業」では、地域包括支援センターと障害者総合支援センターが一つになり、スムーズに高齢障害者への支援がなされると予想できる。

3) 佐藤郁也（2008）「質的データ分析法 原理・方法・実践」新曜社。